

242. バセドウ病の¹³¹I治療後の血中T₃の変動

新潟大学 放射線科

原 正雄 佐藤 一明 栢森 亮

バセドウ病の¹³¹I治療後の遠隔治療成績追求にさいしT₃-テストを行うと甲状腺機能低下症状がないにもかかわらずT₃-テストの低値を示す例があり, しかも¹³¹I治療後の経過年数とともにそのような症例が増加する傾向がみられた。このような例では潜在性甲状腺機能低下であるか血中T₃が増加しているかのいずれかと思われる。そこで¹³¹I治療後の症例につきT₃, T₄, T₃/T₄を測定し, あわせて¹³¹I投与後のそれらの変動を検討した。T₃はダイナボット製ラジオイムノアッセイキットを用い, T₄はレゾマット-T₄キットを用い測定した。

われわれの正常はT₃は136±54ng/dl, T₄は8.9±2.8μg/dl, T₃/T₄は1.78±0.64 (いずれもmean±S.D.)であった。

バセドウ病ではT₃, T₄とともにT₃/T₄も高値を示した。甲状腺機能低下症ではT₃, T₄とも低値を示したがT₃/T₄は一部の症例で高値を示した。単純性びまん性及び結節性甲状腺腫, 慢性甲状腺炎ではT₃, T₄及びT₃/T₄は正常であった。

バセドウ病で¹³¹I治療後1ヶ月ごとにT₃, T₄, T₃/T₄を測定した。治療の奏効した例ではいずれも漸次低下したが, その正常に達する期間はほぼ同じであった。1回の¹³¹I投与で治癒しない例ではT₃, T₄, T₃/T₄とも若干の変動を示したが高値にとどまった。

¹³¹I治療後の遠隔成績調査例では¹³¹I投与後数年間はT₃のやや高い例がみられたが次第に正常化し, T₃/T₄も正常範囲にあり, ¹³¹I治療後にT₃の相対的増加はみられなかった。すなわち¹³¹I治療後T₃-テストが低値を示す例では潜在的な甲状腺機能低下またはその先行状態と考えるべきであろう。

243. 甲状腺機能亢進症¹³¹I治療遠隔成績の検討

都立大久保病院 放射線科

木下 文雄 甲田 英一 前川 全

慶応義塾大学 放射線科

久保 敦司 小林 剛

¹³¹Iで治療した甲状腺機能亢進症858例(男139例, 女719例)について, その遠隔成績を報告し, 特に¹³¹I治療後の甲状腺機能低下症について検討し, 次のような結果を得た。

1) 治療量を定める因子である甲状腺¹³¹I摂取率は平均65%, 有効半減期5.9日, 甲状腺重量は44gであった。

2) 甲状腺の吸収線量は前半7000~8000rads, 後半は4000~5000radsを目標とし, 初回投与量は前半5~6mCi, 後半は4mCi前後で, 投与間隔は前半は数ヶ月に1回, 後半は6~12ヶ月に1回投与し, 投与回数前半は平均2回前後, 後半は1.2~1.4回で, 総投与量は前半は7~10mCi, 最近は5mCi前後が多かった。

3) 治療成績の判定は実際に患者を診療したものに限ったが, 858例中, 追跡可能は, 553例(64%)で, 治癒475例(86%)で, 治療中は63例(11%), 死亡8例であった。

4) 甲状腺機能低下症の頻度は1年後1.3%で, 3年後2.7%, 5年後4.1%, 10~12年後13.8%, 13~15年後21.5%, 16~20年後26.5%と経過年数に比例して機能低下症は漸増した。

5) 機能低下症の漸増はTriosorbの正常範囲を23~25%とすると, 上述の機能低下症の頻度とほぼ一致するが, TSH値の正常範囲を2~8μU/mlとすると8μU/ml以上を示す症例は1~3年後21%, 4~9年後51%, 10~14年後68%, 15~20年後85%と高率な機能低下値を示した。T₃値, T₄値は15~20年後では前者は0.8ng/ml以下50%, 後者は4μg/dl以下39%で, 臨床症状などによる総合判定とTSH値の高値率との中間の値を示した。

6) 白血病, 甲状腺癌は1例もなく, ¹³¹I治療後生誕した126例の子供は性差なく, 1例の心房中隔欠損を除いて全例健康であった。